

## 総合計画審議会 意見概要(H22. 8. 22開催)

## 1. 計画全般に関する主な意見

- 今回は「生活大県」が生活の質の充実を目指すことが明確になっておりよい。雇用は創造と安定が重要。働く意欲を含めた雇用の創造について、施策やプロジェクトでもっと全面に出すべき。
- 活力をどう活かして「生活大県」につなげていくかが大切。また受け身でなく、自らが変わる意識を醸成する計画づくりが必要。
- 「みんなで創る」を基本理念に入れるのは重要。県民1人ひとりが地域づくりの主役であることをわかってもらい、何をやって欲しいのか、アピールが必要。計画の中にもみんなで創っていこうということが十分ちりばめられていることが必要。
- 計画づくりには、現状把握と現状分析を踏まえた議論が重要。茨城独自の「みんなで創る」ための提案が欲しい。

## 2. 分野毎の主な意見

- 医師確保、保育所待機児童、道路、過疎、コンパクトシティ、環境エネルギーも含めて持続ある社会を目指すべき。
- 少子高齢社会への対応として、子どもに関する施策を重点的に打ち出していくべき。
- 子どもの虐待が社会問題となっており、地域を含めた子育てが重要。
- 子どものプレゼンテーション力が不足している。受け身の授業ではなく、教師との対話の中で相手を説得する力や交渉力をつくり上げていくことが必要。
- 社会起業家は新しい公共の担い手であり、チェンジメーカーとして行政をリードしていってくれる人材と認識すべき。
- 農業や林業には自然や環境など目に見えない多面的な機能があり、これを守っていくことが重要。
- 観光や公共交通に関する施策について、より内容を充実させていくことが必要。
- 茨城県で作られたものにいかに付加価値をつけられるか、ブランド力が非常に重要。